

## 第5回コア会議 議事要旨

### 1. 将来の都市空間の構造図（資料3）について

#### （全体）

- 市民の人が見ることを考えると、現行計画のほうが図の表現が分かりやすい。行政の人がみて羅針盤にするのであればよいが、市民に見せる工夫をした方がよい。
- 「日野の記憶と文化を伝える」、「日野の暮らしの舞台を支える」、「日野の人々が活発に活動する」ごとに図面を作成する必要がある。また、色の使い方などをより分かりやすくしてほしい。
- 資料3を3つのレイヤーで整理し、図に落とし込む情報も含めて検討し、次回のコア会議では、その資料を基に議論を行うこととする。まちづくりマスタープランへ掲載する際の図の表現については、レイヤーごとに整理した図と、3つのレイヤーを重ねた図のそれぞれの役割分担を整理し、最終的にどのような表現にするのかを検討していく必要がある。
- 議論するうえでもレイヤーごとの方がよい。例えばウォーキングマップなど、細かくすれば盛り込める。小さい公園が集まりすぎているので別の用途にしようなどと検討できる。そういったものを市民に見せれば、ウォーキングだったらここへ行こう、買い物はここへ行こう、といったことにもなるかもしれない。
- 中学校区が示されているが、表示する必要はない。
- 「将来の都市空間の構造図（20年後の日野のすがた）」とあるが、話を聞いていると現状を示しているように思う。

⇒土地の使い方については、基本的には今ある環境を保全する方針である。ただ、3拠点をつなぐ軸や、生活の軸などは新たに作っていく必要がある。今回新たに加えたものとして、「日野の暮らしの舞台を支える」部分については、現行計画では住宅地が白抜きになっていたが、今後は住宅地の方針もポイントであるため、住宅地の性質ごとに4区分で塗り分けている。また、「日野の人々が活発に活動する」部分については、拠点を軸とした地域計画を行っていくために、交流や文化の交点となる場所を明確に位置付けている。産業については、会議の中で「大規模土地利用など、アクションが起こりそうな部分への働きかけが弱い」といった意見も挙がっていたため、新しい形での産業の発展を見込む地域として、「周辺と調和した産業の活力あるまち」を示している。駅前については以前から様々な取り組みを行っているため、内容は変わるかもしれないが、図の表現は大きくは変更していない。（小泉委員）

- こんなに緑が減ってしまうのかと思ってしまう。今の図を20年後の姿だと思うと住み続けたいとは思わない。

⇒緑の印象が薄い、緑をなくす方針ではないため、表現については検討する。（事務局）

#### （日野の記憶と文化を伝える）

- 「歴史と文化の拠点」は2箇所しか記載されていないが、平山城址公園はあえて示していないのか。昔訪れたことがあるが、よい場所であった。拠点に加えられるか。
- 平山城址公園は、主要な施設であるが、市外の施設であるため、マスタープランに掲載することは難しいかもしれない。ただし、隣接するエリアの方針については検討する必要があるかもしれない。また、日野市にとって重要な資源であることを別の部分で触れてもよいかもしれない。今までのコア会議の中でも、「周辺部を含めて検討すべき」等の意見をいただいているため、その点も含めて検

討いたきたい。

⇒平山城址公園を歴史的な施設として位置づけるべきか、協働推進課や生涯学習課に確認する。(事務局)

○「歴史と文化の拠点」が2か所しかないが、百草園は入らないのか。また、「歴史と文化の軸」が甲州街道になっているが、「歴史と文化の拠点」2か所をつなぐルートを、「歴史と文化の軸」として考えられないか。

○「歴史と文化の軸」といった表現は適切ではないのではないかと。軸ではなく、線状に存在する歴史的な資源である。現行計画策定時は、戦略的に軸にしていくという意図があったのかもしれないが。

○浅川から南側には「緑とコミュニティ」がないが、南側の方が緑は多いのではないかと。

⇒大きな公園を「緑とコミュニティ」としており、南側には大きな公園がないため記載していない。(事務局)

○平山城址公園は「緑とコミュニティ」として位置付けられるのではないかと。百草園も該当するかもしれない。

⇒ご指摘の点について検討する。(事務局)

○「緑とコミュニティ」は公園というイメージか。新町交流センターなど、市民が集まって交流する場所は該当しないのか。市民交流等の社会活動としての拠点は別の凡例で示しているわけではないのか。

⇒日野中央公園や七ツ塚公園などの大規模な公園である。また、ふれあいホールや市役所など、規模の大きな人が集まる場所を、「交流・文化・スポーツの拠点」として示している。(事務局)

○南側の住宅地は丘陵地と連続した緑があるが、「緑とコミュニティ」では、木の多い公園等だけが位置付けられている。緑の多い住宅地等も位置付けられないかと。

⇒「豊かな緑に囲まれたまち」といった表現を加えることを検討する。(事務局)

○現行計画では「公園と緑地の保全と活用」という表現があるが、削除してしまってよいのか。また、多摩丘陵は大きな資源であるため、多摩動物公園、七尾公園等を、「多摩丘陵にある公園や緑地」といった表現で、少し濃い緑色の塗りで示せるとよいのではないかと。崖線は線でよいのではないかと。

⇒分かりやすい表現になるように調整する。(事務局)

## (日野の暮らしの舞台を支える)

○「日野の暮らしの舞台を支える」部分の、「坂道が苦にならない多様な暮らし方ができるまち」については、現状では坂道が苦になる地域であるが、将来的には苦にならない地域になるという理解でよいのか。

○例えば、緑等のレクリエーションを嗜好する人々が移り住んでくるなど、そういった地域としても考えられる。名称については検討する必要がある、「豊かな自然環境を活かした新たなライフスタイルを実現するまち」などが考えられる。

○「都市活動を支える主要道路」について、川崎街道が示されていないが、主要道路ではないのか。大事な生活道路であり、道が狭い部分があるため、道路拡幅ができるとよいのではないかと。

⇒都市計画道路ではないため示していない。バス通りではあるが、都市計画上の幹線道路という位置付けはない。道路拡幅の予定は無いため記載できない。(事務局)

○「日野の暮らしの舞台を支える」部分の、4種類の色の塗りについて、区分はこのままでよいのか。実際の地域の状況と差異があるように思う。

### （日野の人々が活発に活動する）

○駅以外の場所も生活拠点に位置付けられているが。

⇒今回変更したポイントである。現行計画では駅をサブ拠点として位置付けているが、人々が集まって交流する場所は駅だけではない。現時点の候補として、高幡台団地の 73 号棟跡地や日野バイパスの分岐点を示している。現時点ではまだ検討段階であるため、今後も引き続き整理が必要である。（事務局）

○駅は利用圏域が広く、様々な機能が集積している拠点であり、それ以外にも生活拠点はまんべんなく必要である。

○「交流・文化・スポーツの拠点」が南側にはほとんどなく、浅川スポーツ公園も示されていない。⇒ご指摘の点について検討する。（事務局）

○地域によっては、なぜ自分たちのまちの資源が示されていないのか、といった疑問を持つ方や、自分たちの地域が取り残されていると感じてしまう方がいるかもしれない。

⇒意見交換会という形で市民の方にも意見をいただきたい。図の表現として、どこまで載せるのかについてはコア会議の中で意見をいただきながら検討したい。（事務局）

### （白抜き部分）

○市内全体に色を塗らないとおかしいのではないかと。多摩テックの跡地も、20 年後はどうなるかわからない。

⇒「日野の暮らしの舞台を支える」という区分のため、面的に住宅地に色を塗っている。白抜き部分の土地利用は基本的には住宅地でないため、別の表現を考える。（事務局）

○20 年後のイメージとして考えるのであれば、多摩テック跡地についても、市で方針を考えておくべきである。「周辺と調和した産業の活力あるまち」についても、現状の工場に色を付けただけであるため、20 年後の方針を示す必要があるのではないかと。

⇒開発の際には市と協議するよう取り決めるなど、勝手に開発させないための方策を市で検討している。（事務局）

### （中央自動車道バスターミナル）

○中央自動車道のバスターミナル（以下、中央道日野）の部分にスマート IC が整備されるという話を耳にしたことがある。現状でバス停があるため、活用を検討してみてもどうか。観光の起点になるかもしれない。多摩動物公園とつながれば、山梨からの観光客が増えるのではないかと。

○バス停の案内表示に、甲州街道駅と中央道日野がつながると案内を目にしたことがある。つながった場合の 20 年後のイメージを描いておくとういのではないかと。

○中央自動車道の側道に沿ったかたちで高規格道路が整備される予定であり、なにかしらの活用が考えられるかもしれない。（事務局）

○20 年後のイメージであれば、現実的な方針以外に、夢のある方針も示されているとよい。

○資料 3 には中央自動車道が表現されていないため、高規格道路が整備されるならば追加するとよい。産業については、まず、大規模工場は戦略的な取り組みを進めるエリアとして「産業の活力と住環境が調和したまちづくりを目指す地域」という位置付けをし、多摩テック跡地は「自然環境とレクリエーションが調和したまちづくりを進める地域」とするなど、産業の中でもそれぞれ方針が異なる

るため、分けて示せるとよいのではないか。土地利用は持ち主と相談しながら決める、という方針でよいのではないか。

## 2. 地域別構想について

### ①大坂上中学校地域

#### (新町4丁目)

- 新町4丁目は、世帯は増加見込みであるが、子どもの数は減少見込みであり、土地利用で見ると農地が多い地域でもある。
- 10年前に子育て世帯が転入してきてから、子育て世帯が増えていない地域である。6歳未満の人口で分析しているため、このような図になっている。(事務局)
- 区画整理当初は若い世帯が多かった。今後は農地の細分化にともない、世帯も増えていくと考えられる。(事務局)
- おそらく住宅が増えていく地域であるため、農地と宅地の共存を考えていく必要がある。また、若い方が引越してくる可能性も十分にある地域である。
- 新町3丁目に住んでいるが、年々農地が減ってきており、アパートや駐車場が増えてきている。20年後は農地がほとんどなくなってしまうかもしれない。
- 日野駅から徒歩15分程度である。高台の部分が昔は全て農地であったが、住宅になってしまった。
- 注意しながらまちづくりを進める必要のある地域であり、地域の現状を上手く捉えて方針を整理すべきである。様々な可能性がある。

#### (神明1～4丁目、大坂上1,4丁目、多摩平7丁目)

- 高齢者の増加が予測されるエリアであり、高齢化に対応したまちづくりを進める必要がある。
- 実践女子大学周辺は、大学と連携した、なにかしらの拠点として考えられるのではないか。行政とのコラボなども行っているため、社会実験的な取り組みができるとよい。
- 商工会議所も近くに立地しているため、商工会議所と行政と実践女子大学で、高齢者が暮らしやすいまち、という方向性でなにか考えられるのではないか。
- 拠点としても考えられるかもしれない。
- 全市的な拠点にするか、地域別の拠点とするかは要検討であるが、あってもよいのではないか。駅へのアクセスがよく、交通利便性の高い地域でもあるため、地域の価値を上手く活用して高齢者が暮らしやすい地域づくりを行うか、または居住者世代の入れ替え（子育て世帯の転入）を推進することも一案である。

#### (安全な暮らし)

- 多摩川周辺や日野自動車周辺の道路幅員の狭い地域は特に、防災面での不安がある。
- 防災面の解決策は必ずしも道路拡幅だけではなく、避難場所の確保等で補う必要がある。(事務局)
- 水害により浸水した際の避難方法を検討しておく必要がある。水害の際に、どこにも避難できないという状況にはならないようにすべき。
- ⇒水害時の避難場所については、日野市洪水ハザードマップに明記している。(事務局)
- 地域でも災害時の避難所の運営や、地域ごとの避難場所の割り振り等について議論を行っている。

浸水時以外にも、ゲリラ豪雨なども想定して議論している。

○避難所などの施設が充足できているのかなど、5階以上の高さの建物で避難できる場所がどの程度あるのか等も把握しておく必要がある。また、災害時にはどのようなことに気をつけなければならない地域なのかを示す必要がある。

○倒壊危険度が高い地域については、旧耐震基準の建物が多い地域でもあるが、市街地密度が高く、世帯数が多い地域は倒壊危険度も高い。(事務局)

⇒密集している地域は少ないのではないかな。

⇒120㎡程度の敷地が多いが、幅員4m以下の道路が多い地域ではある。地域危険度は相対評価による指標である。(事務局)

○旧耐震基準の建物の割合を示すと分かりやすいのではないかな。道路幅員4mだからといって、特別な状況ではない限り大火にはならない。高齢化している地域では建物の建築年次も古いことが想定されるため、高齢化の進む地域と併せて検証する必要がある。

### (水車堀公園)

○水車堀公園には水車が設置されている。

○最終的なまちづくりマスタープランには記載する必要はないかもしれないが、地域の住民に議論してもらう段階では、地図に落としておくとよい。

### (日野自動車、日野台1丁目)

○まちづくり方針図の日野自動車の東側の部分にも、「操業環境の維持・保全」の網掛けがされているが、日野自動車と、住工混在の地域では方針が異なるため、表現を分けるべきである。

### (急傾斜地崩壊危険箇所)

○急傾斜地は八王子の方まで続いているかと思うが、示されていないのはなぜか。また、急傾斜地崩壊危険箇所に指定されていない地域でも、危険な地域はある。

⇒急傾斜地崩壊危険箇所は、傾斜地の傾斜や高さによって指定しているデータである。来年度より、土砂災害防止法の中で特別警戒区域が指定される予定であるため、そちらを詳細にみていく必要がある。(事務局)

## ②第一中学校地域

### (万願寺2丁目、4丁目)

○万願寺駅から日野郵便局までの間に果樹園や農地があるが、残すべきである。この地域から農地がなくなってしまうと、ただの住宅地になってしまう。農地が近くにある環境など、地域の特徴は残すべきである。定着率が低く、若い世代が一時的に転入してくるだけの地域になりかねない。愛着をもって住んでもらうことに意味があるのではないかな。

○田園住居地域の指定はできないのか。

⇒若い世代の転入が期待できる地域であり、実際に子育て世代の転入も増えている。田園住居地域への指定は難しいと考える。(事務局)

○一部の地域では住宅開発を容認し、農地については民間が維持管理を行うという方針でよいのではないかな。細かなまちづくりで、果樹園を残すことも検討すべきである。地権者の営農意欲にもよる

が、意欲がある方が営農を続けられるように市でバックアップすることも必要ではないか。宅地開発をするエリアと、農地を守るエリアの仕分けができるかといいのではないか。

○営農者へのヒアリングなども実施できるとよい。(事務局)

○実践女子大学のグラウンド跡地への移転が決定したため、閉鎖することとなった。土地の所有者は東京都都市づくり公社であり、民間企業と土地の売買について協議中である。区画整理の際に学校用地として確保していたが、学校が必要なくなった。跡地の土地利用は未定である。(事務局)

○野球場やサッカー場があり、バスケットコートも整備される予定であるため、スポーツのレクリエーション拠点として考えられるのではないか。

○土手の道幅が広く、川沿いはサクラの名所であり、花火も見えるなど、ロケーションが良い。

○高齢者施設の周辺に、高齢者でもできるようなスポーツが行える場所が整備できると健康面でもよいのではないか。例えばゲートボールなど。

○資源がある一方で、防災の視点では浸水の危険性もあるため、その点も考慮する必要がある。公的な避難施設の他に、民間のビルなども避難場所として想定しておく必要がある。

#### (日野本町、日野)

○歴史の軸は長すぎるのではないか。つなぎかたが不明である。また、一里塚や旧甲州街道を示すことも考えられるのではないか。

⇒区画整理も完了しているため、旧甲州街道の復元は難しい。旧甲州街道の面影は全くなく、現在はモノレール通りになっている。(事務局)

○中央道日野のバスターミナルから甲州街道駅までの案内があるとよいのではないか。「甲州街道駅まで徒歩7分」という案内しかない。

○万願寺駅で降車し、中央道日野に向かうという流れはあるかと思うが。甲州街道駅と中央道日野の行き来はあるのか。

⇒甲州街道駅と中央道日野の間に商店街でもあればよいのだが、実際は何もない。(事務局)

○中央道日野は、アクセスも悪いため、あまり需要がない。中央道日野で降りてもらえるようになると面白いのだが。

○方針としては、高齢者施設や子育て施設が充実した地域でよいのではないか。高齢者や子育て世代の需要もあるため。また、意見にあがった地域資源も追加するとよい。

○エプソンからは、別の土地利用をしたいなどの意向は聞いていない。(事務局)

#### (急傾斜地崩壊危険箇所)

○崖線については防災面での危険性はあるが、湧水は保全すべきか。

⇒崖線は樹林で覆われているため、災害時にすぐに崩壊するわけではない。(事務局)

○湧水を保全することで、防災性と自然環境の維持につながるため、現状のまま崖線を残していく方針でよいのではないか。